

第1章 保存管理計画策定にいたる経緯

国指定史跡「宗像神社境内」は昭和46（1971）年4月22日に指定され、国指定天然記念物「沖の島原始林」は、大正15（1926）年10月20日に指定されている。

「宗像神社境内」は、指定を受けてから42年が経過し、特に辺津宮は、昭和の御造営と共に境内が整備され、今に至る。既に史跡内の建造物などは劣化が進行しているものが確認され、宗像大社は、「平成ノ御造営」を計画し、新たな境内の整備を計画している。

「沖の島原始林」は、指定を受けてから87年が過ぎようとしており、その間、大きな変化があった。第二次世界大戦中には、沖ノ島は対馬についてアジア大陸に向けての最前線基地であったため、日本の陸軍や海軍により、島の北側には計3箇所の砲台やそれに伴う弾薬庫などとともに島の北西から北東にかけて軍道が整備された。さらに島の南西側には軍の兵舎が作られ、今もこのような戦時遺構がその当時のまま放置されている。また、戦後、沖ノ島の堤防・船溜まり等の整備が行われ、船溜まりに面する斜面は治山工事が行われた。さらに平成に入ってから島内に携帯電話通信施設が灯台と併設されるなど、島の一部で人為的改変が行われている状況にある。

このような変遷の中、沖ノ島の自然を改めて把握することが最大の課題であった。このため、沖ノ島全島の植生図作成をはじめとする基礎的な調査を行い、保存管理方を明確にすることが必要であった。

一方、平成21（2009）年1月5日に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」としてユネスコ世界遺産暫定リストに記載され現在も取り組みを進めている。世界遺産として顕著な普遍的価値を損ねることなく保存管理していくことが求められている。

以上から、本計画策定が進められ貴重な歴史・自然資産を次世代へ継承していく上での適切な保存管理の方向性を定めていくため、史跡「宗像神社境内」については、史跡内に何があり、どのような状況であるかなどを把握するため、平成24（2012）年度に史跡の土地所有調査および構成要素の悉皆調査を実施した。また、天然記念物「沖の島原始林」について、現時点での「原始林」としての状態や将来に向けての植生変化を観察する上での重要な基礎資料として、沖ノ島全島の綿密な植生図を作成するとともに、オオミズナギドリなどの動物調査を行うことが必須となり、今回、基礎的な環境調査を実施した。平成24（2012）年度は、これらの調査成果を保存管理計画策定のための基礎資料として中間報告書に取りまとめた。平成25（2013）年度は、これらの調査成果を踏まえ、保存管理計画の策定を行った。

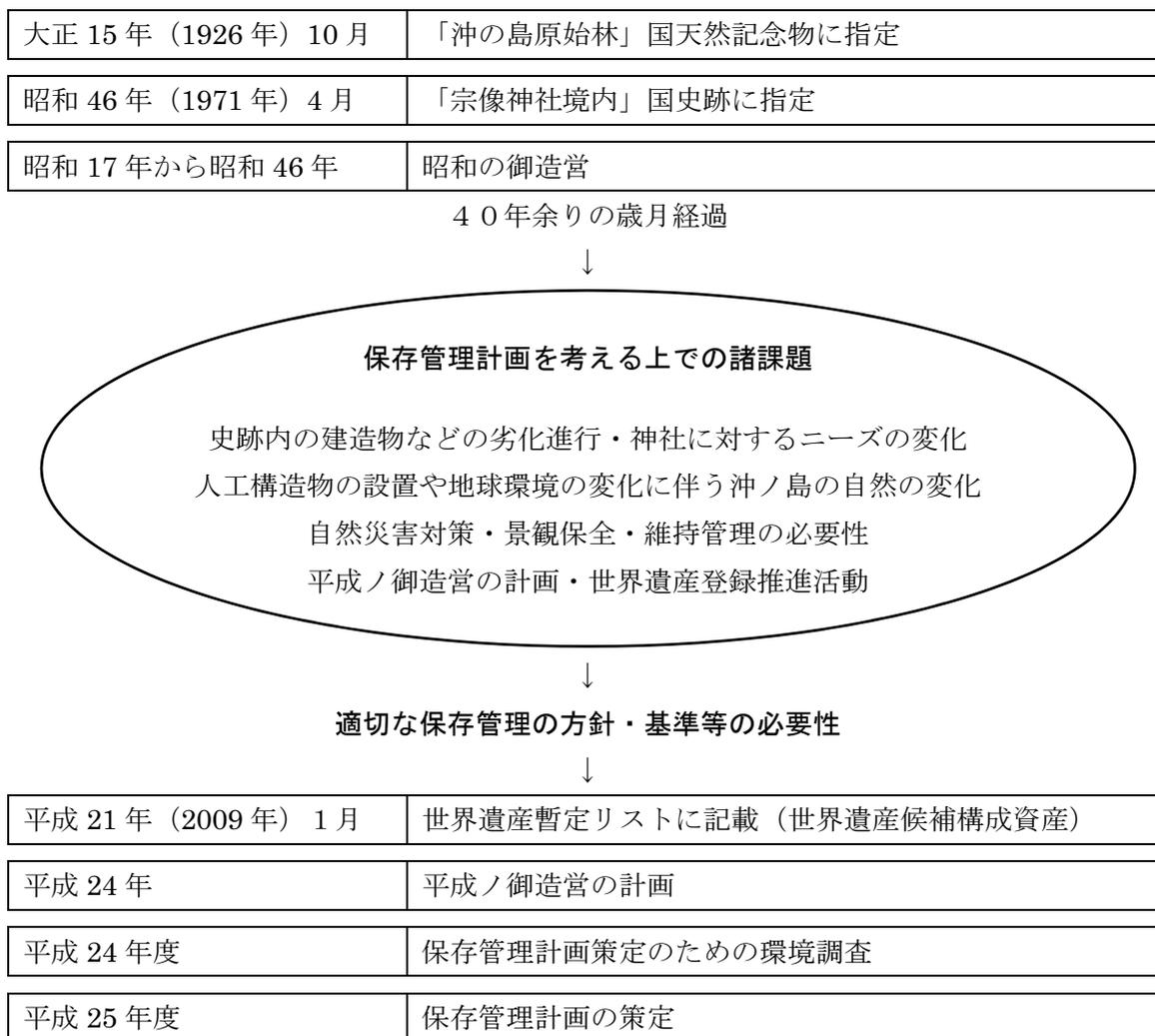


図 序-1 保存管理計画策定の沿革

第2章 保存管理計画策定の目的

1. 計画の目的

国指定史跡「宗像神社境内」および国指定天然記念物「沖の島原始林」を適切に保全し、次世代へと確実に伝達していくために、保存管理計画を策定する。

国指定史跡「宗像神社境内」および国指定天然記念物「沖の島原始林」は、九州本土、大島、沖ノ島に分布し、指定対象面積は合計して 813,635.71 m²と広大であるため環境や取り扱いが様でない。また、指定地の大半は宗教法人宗像大社の所有地であるが、一部に個人の所有地、市有地等を含むため、管理主体が様ではない。

このような指定地の状況において、史跡および天然記念物を適切に保存管理するためには、そのあり方を土地所有者・周辺住民・関係諸機関・市民等の関係者間で共通認識し、統一した考え方の下に取り組みを推進・継承していくことが望ましく、保存管理計画はその指針となるものである。

2. 保存管理計画の構造

保存管理計画の構造について、『史跡等整備のてびき』（文化庁文化財部記念物課監修）から引用し、以下に確認する。

保存管理計画においては、自然的・社会的・歴史的側面から行う各種の調査結果に基づき、当該記念物の本質的価値を明確化し、それらを次世代へと確実に伝達するために必要とされる保存管理の方針、方法等を示すのみならず、保存管理に直接的または間接的に関係することとして、当該史跡等の将来像に関する整備活用の骨子と、それらを適切に運営するための方法を示すことが必要である。したがって、保存管理計画は次の①～③の分野から構成される。

- ① **保存管理** : 史跡等の本質的価値を次世代へと確実に伝達するための「保存管理」に関する分野（保存管理計画に必須の分野）
- ② **整備活用** : その延長上にあることとして、適切な保存管理に対する地域住民の合意を形成していく上で必要となる当該史跡等の将来像の概要を示した「整備活用」に関する分野（間接的に関連する分野）
- ③ **運営および体制** : ①および②を一体として確実に進めていく上で必要となる「運営方法」や、それを円滑に進めるための「体制整備」に関する分野（保存管理計画に必須の分野）

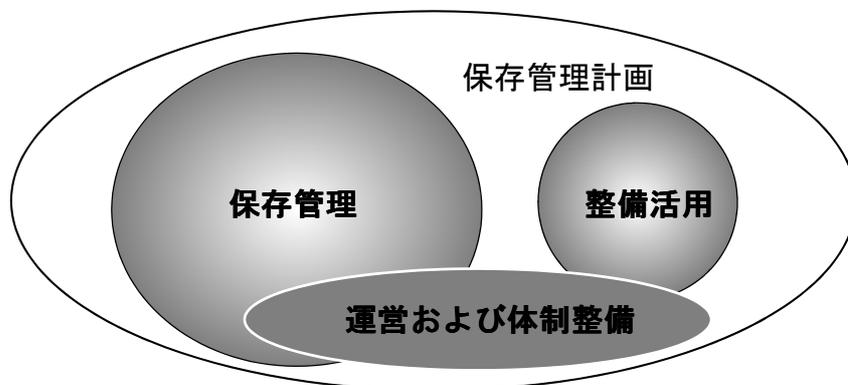


図 序-2 保存管理計画の構造

第3章 組織と構成

本計画策定では、平成 24（2012）年度・25（2013）年度の2か年にわたり、「宗像市史跡等保存管理推進委員会」を設置し、指導・助言を受けた。

宗像市史跡等保存管理推進委員会の委員は以下のとおりである。

委員長	史跡部門（考古）	西谷 正 氏
副委員長	史跡部門（景観）	杉本 正美 氏
委員	史跡部門（地質）	林 重徳 氏
委員	建築部門（建築）	河上 信行 氏
委員	自然部門（動物）	岡部 海都 氏
委員	自然部門（植物）	井上 晋 氏
委員	地元市民（大島）	沖西 敏明 氏
委員	地元市民（田島）	吉武 二美 氏
委員	市民ボランティア（文化財保護）	平松 秋子 氏

調査実施および計画策定に当っては、以下の方々の御協力・御教示いただいた。記して謝意を表す。

文化庁文化財部

記念物課史跡部門文部科学技官	浅野 啓介 氏
記念物課天然記念物部門文化財調査官	本間 暁 氏
記念物課名勝部門主任文化財調査官	本中 眞 氏

福岡県教育庁総務部

文化財保護課企画係長	吉田 東明 氏
文化財保護課主任技師	岸本 圭 氏
文化財保護課主任技師	坂元 雄紀 氏
文化財保護課技師	正田 実知彦 氏

福岡県企画・地域振興部総合政策課

世界遺産登録推進室参与	磯村 幸男 氏
世界遺産登録推進室技術主査	岡寺 未幾 氏
世界遺産登録推進室主任技師	大高 広和 氏
世界遺産登録推進室主任技師	松本 将一郎 氏
世界遺産登録推進室主任技師	野木 雄大 氏

宗像大社

権宮司	葦津 敬之 氏
禰宜	渡邊 秀丸 氏
禰宜	葦津 幹之 氏
権禰宜	壹岐 貴寿 氏

宗像市の調査組織は以下のとおりである。

総括 宗像市教育委員会 教育長	久芳 昭文
市民協働・環境部長	福崎 常喜
郷土文化交流課長	清水 比呂之
文化財係長	安部 裕久
経営企画部長	鳥巢 好孝（平成 24 年度）
経営企画部長	中野 和久（平成 25 年度）
世界遺産登録推進室長	岩佐 芳弘
調査・報告書担当 世界遺産登録推進室主任技師	岡 崇
庶務・会計 世界遺産登録推進室主事	加地 俊博

第4章 調査および計画策定の経過

平成24(2012)年度は、保存管理計画策定の基礎資料を蓄積するため史跡および天然記念物の調査を実施した。

- | | | | | |
|-------|--------|-----|---|------------------------|
| 平成24年 | 4月26日 | (木) | 航空レーザー計測実施 | |
| 平成24年 | 7月4日 | (水) | 第1回宗像市史跡等保存管理推進委員会(前半)に伴い沖ノ島(沖津宮)および大島(沖津宮遙拝所・大島御嶽山遺跡・中津宮)の視察を実施した。 | |
| 平成24年 | 7月6日 | (金) | 第1回宗像市史跡等保存管理推進委員会(後半)に伴い辺津宮の視察を行い、今後の調査の進め方などを協議した。 | |
| 平成24年 | 8月7日 | (火) | から8月10日(金) | 沖ノ島(夏)の調査 |
| 平成24年 | 8月10日 | (金) | から平成25年1月30日(水) | 辺津宮の調査 |
| 平成24年 | 8月28日 | (火) | から平成25年1月28日(月) | 中津宮の調査
および沖津宮遙拝所の調査 |
| 平成24年 | 10月9日 | (火) | から10月12日(金) | 沖ノ島(秋)の調査 |
| 平成24年 | 11月14日 | (水) | 辺津宮境内の境界杭の確認を行う。 | |
| 平成24年 | 12月3日 | (月) | 第2回宗像市史跡等保存管理推進委員会 | これまでの調査報告 |
| 平成24年 | 12月7日 | (金) | 史跡等保存管理委員会委員河上氏(建築)による辺津宮境内末社の築造年代の確認 | |
| 平成25年 | 2月13日 | (水) | 第3回宗像市史跡等保存管理推進委員会
報告書の刊行に向けて意見聴取と構成要素の抽出を行った。 | |

平成25(2013)年度は、保存管理計画の策定を行った。

- | | | | | |
|-------|--------|-----|---|------------------|
| 平成25年 | 6月19日 | (水) | 宗像大社との協議 | 前年度の調査報告 |
| 平成25年 | 7月18日 | (木) | 第4回宗像市史跡等保存管理推進委員会
前年度の調査報告および保存管理の目標、基本方針 | |
| 平成25年 | 8月18日 | (日) | から平成25年8月19日(月) | 沖津宮遙拝所の調査 |
| 平成25年 | 9月19日 | (木) | 宗像大社との協議 | 保存管理に向けての課題把握と確認 |
| 平成25年 | 10月25日 | (金) | 第5回宗像市史跡等保存管理推進委員会
保存管理計画の素案提示 | |
| 平成25年 | 11月22日 | (金) | 小屋島・御門柱・天狗岩の測量 | |
| 平成25年 | 11月25日 | (月) | 宗像大社との協議 | |
| | | | 1回目 境内別地区区分及び現状変更取扱い基準確認 | |
| 平成25年 | 12月11日 | (水) | 第6回宗像市史跡等保存管理推進委員会
保存管理計画の修正箇所の確認 | |
| 平成25年 | 12月26日 | (木) | 宗像大社との協議 | |
| | | | 2回目 境内別地区区分及び現状変更取扱い基準確認 | |
| 平成26年 | 1月30日 | (木) | 宗像大社との協議 | |
| | | | 3回目 境内別地区区分及び現状変更取扱い基準確認 | |
| 平成26年 | 2月12日 | (水) | 第7回宗像市史跡等保存管理推進委員会
保存管理計画成果品の確認 | |

